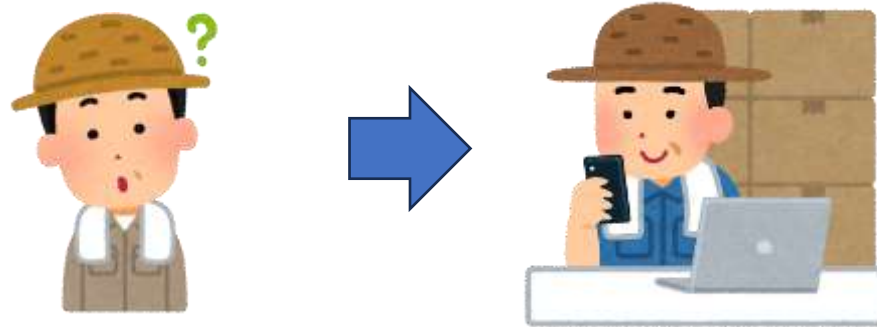


農業アプリを使ってみませんか？



スマートフォンで使える様々な種類の農業アプリケーション（作業支援アプリ、経営管理アプリなど）が各社から提供されています。

それらのアプリを使い、作業の省力化やデータ管理の効率化などの効果を実現している事例を紹介します。



農業アプリに搭載されている基本的な機能の例

- 1 作業日誌の作成
- 2 管理している田畑の登録と管理
- 3 使用した農薬の記録と管理
- 4 環境データの収集
- 5 栽培の案内

などなど。

アプリごとに機能が異なります。

作業日誌

5/25田植え
キヌヒカリ
水田○番地
気温○度

田畑の管理



管理して
いる田畑
は青色

農薬管理

○月○日
薬剤A使用
水田○番地
数量○リットル

事例 1 兵庫県の事例①



Aさんご夫妻

兵庫県内で営農するAさんの経営概況

- ・ 水稻、野菜を生産（農薬不使用、堆肥施用）
- ・ 管理する田畑は20ヘクタール以上（150枚以上）
- ・ 家族7名で作業



色塗りの農地が管理している農地

そんなAさんの悩みは。。。

- ・ 7人の間での情報共有
 - ・ 田畑の効率かつ適切な管理
 - ・ 作業の記録
- など多岐にわたっていました。

展示会にて、アプリ提供会社（K社）の担当者に悩みを話したところ、具体的なアプリの活用方法とこれによる問題解決の説明を受け、アプリを導入することになりました。（詳細は次のページ）

	課題	アプリの活用内容と効果
作業を行う田畑の場所共有	① 田畑の枚数が多いため、毎朝集合し、作業を行う田畑の情報共有が必要だった。	① 集合場所の田畑はアプリ上で表示されるため、毎朝の集合が不要となり、直接田畑に向かうことができるようになった。
給排水の状況把握	② どの水田で給排水が行われているかわからず、見回りが必要である上、水の入れすぎ・排水しすぎ、が発生していた (情報共有は口頭中心)	② 給排水を行っている水田の情報を入力することで、アプリを見れば状況が把握できるようになったことにより、水管理がより適切に行えるようになった。 また、無駄な見回りがなくなった。

	課題	アプリの活用内容と効果
作業記録 の統合	③ 作業記録を紙の資料として作成していたが、作業をする人がそれぞれ別々に記録しており、それらを統合することに労力が発生	③ スマホで各自作業を入力することができるため、隙間時間に気づいたことをすぐ入力できる上、一つのデータに記録することになるため、記録の統合作業も不要となった。
作業の 進捗状況 の把握	④ 各田畑での作業の進捗状況は、事務所に置いてある紙の作業記録を見ないとわからなかった（管理する田畑が多いため）	④ アプリ上で作業が記録されるため、紙の資料がなくてもアプリ上で進捗状況を確認できるようになった

	課題	アプリの活用内容と効果
生産履歴 の作成の 省力化	⑤ 直売所に提出する生産履歴の作成のために、紙の資料から必要な情報を抜き出す必要があり、労力が必要であった	⑤ 直売所に提出する生産履歴の作成にあたり、アプリに記録された情報を参照できるため、大量にある紙の資料を調べる必要がなくなり、省力化が図られた。
その他 （栽培計 画作成）	⑥ その他	⑥ 次年度の栽培計画の作成にあたり、田畑ごとに前年度に作付けした品種・行った作業とその時期がすぐ確認できるようになり、計画の作成が円滑に進むようになった。

Aさんのコメント

アプリを導入した結果、無駄な作業時間の削減により、今まで諦めていた作業にも時間を割くことができるようになった。

このことが、農作物の品質向上につながった。

アプリを今後も使っていけば、より効率的に作業を進められそう。

参考

K社製のアプリは、記録できる圃場数に制限のある無料プランの他圃場数に制限のない有料プラン（月額2,200円（税込））が提供されています。



京都府内で営農するBさんの経営概況
・ ビニルハウス二棟で野菜を生産

- ・ アプリ導入のきっかけは、京都府のブランド産品として野菜を出荷するためには、栽培履歴の作成と提出が必要であったところ、紙での栽培履歴の作成・提出は大変なので電子化に向けた話し合いがJ A内の生産者グループで行われていたこと。
- ・ 同時期にJ Aが導入を進めていたN社製のアプリを生産者グループ内の希望者で導入してみようという話になった。

参考

N社製のアプリは、個人ではなく、生産者グループ単位で利用する方式であり、利用料は一律の料金設定ではないため、要問合せ。

N社のアプリの活用内容と効果

- アプリは生産者グループで導入。100人程度がアプリを利用しており、作業の記録をアプリ上で行う。
また、月ごとの栽培履歴の提出は、アプリを介して自動で行われるため、紙に記載した栽培履歴を行政機関等に届ける・返却を受ける、という作業が不要となった。（労力の削減）
- 生産者の栽培履歴はアプリ上で行政機関やJA職員も閲覧することができ、気になることがあれば連絡が可能。
- 病気や害虫の発生時に農薬を散布して対応することとなるが、アプリ上で使用する農薬を選択すると、希釈倍率を教えてくれることに加え、使用回数も表示され、農薬を使用してはいけないときはアラームが表示される。

Bさんのコメント

- ・栽培履歴の作成と提出がとても楽になった。
- ・農薬の使用について、希釈倍率の表示と問題があるときの警告の表示には助かっている。（うっかりミスの減少につながる）



和歌山県内で営農するCさんの経営概況

- ・ 水稻を15ヘクタールで栽培（100枚以上）
- ・ 農業に参入して5年以内

【アプリ導入の経緯】

農業外から参入したため技術的に未熟な部分があり、収量と品質に課題を持っていたところ、アプリを使えば生産方法を案内・指示してくれるということであったため、S社のアプリを導入した。

【課題】

導入前は、自らの感覚に頼っており、「〇〇から〇日経過したので次は△△を行おう」「◇日経過したのでそろそろ稲刈りかな」というスケジュールで作業をしていた。そのため収量も地域平均より少なく、刈遅れに伴う割れ米が発生しており、品質も向上の余地があった。

参考

S社製のアプリは、一部機能が制約される無料版が提供されている他、センサー（1基数万円、月額通信料と利用料が5千円程度から）の有償利用が可能。

S社のアプリの活用内容と効果

- 地域の代表的な農地に環境測定センサーを設置し、温度などを自動的に計測しており、温度などの情報はアプリで確認できる。
- あらかじめ、生産方法（例 積算温度が〇度に達したら〇〇の作業を行う）を登録しておく、計測されたデータを踏まえ、アプリから「中干の時期です」「稲刈りの時期です」「いもち病に気を付けてください」といった案内が表示される。その案内を踏まえ、農地を見回り、水管理、施肥、消毒など必要な対応を行うようにしている。
- その結果、①刈遅れがなくなった、②割れ米が減少した、③消毒の回数も削減できた。また、収量は地域平均を上回り、かつ、品質も歩留まりが良くなったことにより、収益も改善した。

Cさんのコメント

- ・ アプリの導入で収量と品質の向上につながった。
- ・ 農地の管理が楽になり、管理できる面積が増えた。
- ・ データ入力には慣れたら問題なく対応できる。

【三事例に共通の効果】

- 全事例ともアプリの利用により、労働時間の減少や収量の増加など効果が確認された。
- アプリでの栽培の記録に慣れは必要であるが、慣れれば紙媒体に書くよりも楽とのコメント。労働時間も削減される。

【個別の効果】

- アプリを導入した結果、無駄な作業時間の削減により、今まで諦めていた作業ができるようになった。
農作物の品質向上に時間があてられるようになった。



各社から、様々な農業アプリケーション（作業支援アプリ、経営管理アプリ）が提供されていますので、ご自身にあったアプリを導入し、農作業を楽しんでみませんか。

以上です。最後までお読みいただきありがとうございました。



左のQRコードからは、
「スマート農業推進フォーラム 2023 in 近畿」
のウェブサイトアクセス可能です。
そのウェブサイトにも、一部ですが農業アプリケーションを紹介しています。

[https://www.maff.go.jp
/kinki/seisan/smart/event/2023_shutten.html](https://www.maff.go.jp/kinki/seisan/smart/event/2023_shutten.html)

お問い合わせ先
近畿農政局 生産部
環境・技術課
スマート農業担当

075-414-9722（直通）